

2011 年事業報告

1. 事業実施の方針

エチオピアでの緑化や水資源開発に関する事業を推進するとともに、国内においてはその広報活動、募金活動、環境に関わるキャンペーン事業、環境ネットワーク事業、およびそれらに付随する活動を行う。

2. 事業計画

(1) 海外事業／エチオピア連邦民主共和国での緑化事業や水資源開発事業

事業名 決算(ブル※)	事業内容	実施日時	実施場所	報告内容
学校での環境教育 (8,400.00)	植林育林事業 (環境クラブ組織 ⇒畑作り⇒野菜作り⇒木の苗作り⇒ 植林⇒堆肥作り⇒ 植林後の管理)	通年	ラリベラ小 学校 ゲテルゲ小 学校 ナクテラ小 学校	ラリベラ市内の 3 校の小学校で、植育林を通じた環境教育を実施。各校では普段、野菜や苗木の生産、堆肥作り、植育林に加え、アグロフォレストリーの実践を行っているが、2011 年は野菜栽培地での動物被害がひどくなり、例年行っていた野菜の生産ならびに学校のバザーでの販売は断念した。
	環境コンテスト (絵画、詩、作文等)	7 月	ラリベラの 小学校 3 校 と村人	ラリベラ市内の 3 校の小学校で、環境コンテストを実施。参加作品のうち、絵画、作文、詩の各分野での優秀作品を 3 作品ずつ、計 27 名の生徒に対し全校集会時に表彰式を行った。
	自然観察会	10 月	ラリベラの 小学校 3 校	2011 年はラリベラ市内の 3 校 (ラリベラ小学校、ゲテルゲ小学校、ナクテラ小学校) を対象に実施。今回約 60 人強の生徒が、FFF の管理する苗畑を訪問。苗木の育て方や移植の仕方、堆肥の作り方などを学び、自宅の周囲で植樹ができるよう指導した。
衛生プログラム & 堆肥生産 (45,000.00)	衛生問題改善事業	通年	ラリベラタ ウン・01 カ バレ ラスト郡・ ブルバラ	カバレ 01 の各家庭を 9 つのグループに分け、各グループのリーダーが主導する形で衛生環境の向上に取り組んでいる。2011 年は対象地域をラスト郡のブルバラにも広げ、ごみ処理グループの組織化を行い、街中にごみ処理穴、ゴミ箱の設置、有機ごみの分別を推進した。
	有機ゴミの利用も含め、土壌改良のための堆肥を生産する。	通年	カ バ レ 01・02、各 農園、植林 サイト周辺	2011 年はラリベラ市内のホテル・レストランと提携し、有機ごみの収集を行い堆肥化を目指した。しかし、有機ごみの排出量が予想を大きく下回ったり、品質が一定せず、利用は限定されたものとなった。結局、植林サイトの近接地や苗畑内にコンポストホールを用意し、雑草などの有機物を主原材料として堆肥生産を行うこととなった。
生存率調査 (0.00)	植林後の苗の生存率調査	12 月	全植林地	2011 年植林分の生存率調査を実施。植林後に水遣りを施した苗木に関しては、約 60%の生存率を達成したと推定される。
苗木生産 (295,562.00)	ラリベラ市、ラスト郡に整備した 3 つの農園にて、80 万本超の苗木を生産する。	通年	カンカニ、 シマノ、 シムムシャ ハ	前年比で 60%増の植林需要に応えるため、苗畑面積の拡張、小規模灌漑の整備等により 85 万本の苗木生産を目指した。しかし、ポット苗の本数増により、苗木生産本数が抑制され、総生産は 33 種、74 万 5 千本にとどまった。不足分は直播等で補った。

大規模植林 (728,245.00)	ラリベラ市、ラスト郡に確保した植林地に、大規模な植林、育林を行う。	植林：7、8月 育林：通年	ラリベラ市内及びラスト郡の植林地 ナクテラ、アビセグ、シュムシャハ、サルズナ、ブルバラ、カンカニ他	これまで10年間で40万本の植林をしてきたフー太郎の森基金だが、このJICAプロジェクトでは3年で150万本の植林を目指している。2011年は当面の目標であった80万本を若干下回る72万5千本の植林本数を達成。植林面積は計214ヘクタールにまで拡大。水の便の良い植林地では、植林後にも水遣りをし、ガードを雇って大規模なエリアクロージャーを実施し、活着率の向上に努めた。主要植林地での植林本数は、 ナクテラ 6万3千本 アビセグ 6万本 シュムシャハ 7万9千本 サルズナ(新) 4万9千本 カンカニ 4万7千本 ブルバラ 2万2千本 他となった。
	環境関連・有志団体支援	通年	ラリベラ周辺	植林に取り組む有志の団体に対し、広く支援を行った。2011年は積極的な活動を展開している8つのクラブに対し、資機材や苗木の提供、育林用の水道管を引くための支援などを行った。これら団体による植林本数は2万2千本超に及んだ。
地域参加型植林 (0.00)	マイクロクレジットの手法を生かした、地域参加での植林を行う。同時に参加者への定期的な支援と研修を実施する。	植林：6月～7月 育林：通年	ラリベラ市内	元々はFFFが提供する苗木を1,000本植えれば金利をゼロにし、1年後に活着率が7割を超えれば、元金の返済を免除するという計画だった。当初カウンターパートとして見込んだアムハラ小規模融資金庫(ASCI)との提携がうまくいかず、2011年は協同組合との提携を模索した。しかし制度面での折り合いがつかず、結局実施できなかった。
	オーナーシップ意識を持たせた緑化事業としてグリーンキャンペーンを行う。	植林：6月～7月 育林：通年	ラリベラ周辺	ラリベラ市内を中心に合計7,500本(報奨金付)の苗木が植林された。2011年はラリベラ市の農業局が苗木の無料配布を止めたことから、例年になくFFFの苗木配布に高い関心が集まった。報奨金無しの無料配布でも、何と10万本の苗木が一般市民に提供された。
学校整備事業 (10,200.00)	カンカニ小学校サテライトスクール増築&整備	7月	カンカニ	カンカニ小学校の校舎の増築工事、黒板、机、椅子の設置等を行い、無事ラスト郡教育局に引き渡しを行うことができた。2011年も石材、木材など現地で調達できるものは、地域住民が負担するなど、コミュニティ主体の整備事業を行うことができた。
広報活動 ※	サッカー教室とベガルタカップトーナメントの開催	随時	ラリベラ、アディスアベバ	ベガルタ仙台のサッカー・コーチを招聘してのサッカー教室開催とトーナメントを実施した。2011年以降、隔年のコーチ招聘、毎年のトーナメント開催が決定された。
支援者対象のスタディツアー ※	活動地視察 植林 古着配布	7月22日～29日	ラリベラやゴンダールなど	今回の参加者は2名。ハプニング続きの道中となってしまったものの、長い間フー太郎を支援くださっている方々だったことで、何とかご理解を頂いた。

※ 1ブル=4.767円で換算

※ スタディツアー、サッカー関連事業の会計は、国内事業費として処理しています

(2) 国内事業／広報活動、募金活動、環境に関わるキャンペーン事業、環境ネットワーク事業

事業名 予算/決算(円)	事業内容	実施日 時	実施場所	その他（重点目標等）
東日本大震災復興支援事業 (500,000 /465,236)	相馬市や周辺市町村の被災者支援に関する活動を行う。	3 ～ 12 月	相馬市や周辺市町村	被災した会員のサポートをし、避難所での炊き出しや物資配布を行った。仮設入居者に向けた自立支援物資の配布会（5回）、その他の被災者向け配布会を相馬市と新地町で行った。定期的にやってくる鎌倉の青年らと会員を中心としたボランティアの受け入れや手配など中間支援的な活動、ゼミナールの事務局も行った。
サッカー関連事業 (50,000 / 0)	ユアテックスタジアム出店	9 ～ 12 月	仙台市	4月から毎月1回、ベガルタ仙台のホームユアテックスタジアムでのコーヒー販売を予定していたが、震災でかなわなかった。
(50,000 / 0)	相馬市でのサッカー教室	未定	相馬市	昨年に引き続き、相馬市サッカー協会の少年サッカーチームにベガルタ仙台コーチによるサッカー教室を開催する計画だったが中止。ボールを全て流された磯部中学校と被災地の中村第二中学校にボール100個を渡した。
(300,000 /493,762)	ベガルタ仙台のコーチ派遣とトーナメント戦	1月	事務局、エチオピア事務所など	1月6～14日、ベガルタのコーチ2名、関係者4名、TVクルー3名が現地入りしサッカー教室4回、トーナメント戦観戦、エチオピアのクラブチーム訪問などを行う。4年後の世界カップの時に開くタイムカプセルも埋めた。来年以降は毎年ベガルタ杯トーナメント戦とTシャツ制作を行い、2年に1度コーチを派遣しサッカー教室を開催することに。
(50,000 / 0)	他団体との連携	随時	仙台など	ベガルタ杯の開催に当たり現地大使館 JICA から多大な協力を頂いた。
現地の自立に向けたプログラム (100,000 / 0)	村落開発事業のプランニング	通年	事務局	現地の自立のため、世界遺産の観光客を呼び込む、コットン工房と加工食品製造・販売、カフェをベースにした村落開発。ここからの収益により、現地が自ら植林事業を継続していけるようなシステムづくりを考える。7月、タツカゼ修道院を視察。
(350,000 / 0)	商品開発	通年	事務局、東京など	日本女子大食物学科に食材を提供したり、学長にプレゼンなどしていたが、震災後目立った動きがなくなった。
(200,000 / 0)	日本女子大学との連携	通年	事務局、東京など	震災により日本女子大同窓会から多大な支援を頂く。ガイガーカウンター100万円分、高圧洗浄機などの購入費15万円、その他全国の会員の皆さんからたくさんの支援物資や募金を送られた。12月に新妻が平和集会のシンポに参加した。
バキュームカー贈呈 (100,000 / 0)	ラリベラ市へのバキュームカー贈呈	通年	事務局、エチオピア事務所など	ラリベラにトイレは各所にできたが、尿尿を汲み取るバキュームカーが無く、トイレが使えない状態に陥っている。2010、2011年の全国キャンペーンの支援金を合わせ、ラリベラ市にバキュームカーを寄贈する予定だったが、全国キャンペーンが震災により中止になった。
専門家派遣 (450,000 / 0)	果樹専門家のラリベラ派遣	11月	福島県果樹試験場、事務局、エチオピア事務所	ラリベラでの加工食品づくりのために、ラリベラ周辺では果樹の植林も進めているが、果樹は普通の植林とまったく違った管理がなされていることから、日本から専門家を派遣して現地で技術指導を行う予定だった。震災により専門家が渡航不可に。

支部活動 (50,000 /14,185)	支部の活動の活性化	通年	全国 17ヶ所	全国の会員、支部の皆さんからおびただしい量の物資が送られた。また上総支部、松本支部が相馬でのボランティア活動に参加。相馬支部は炊き出し、物資配布、恒例行事参加など様々な活動を行った。
地域に根差した活動と組織作り (20,000/ 0)	ボランティアスタッフの活動整備と地域での活動	通年	相馬市ならびに東北	ボランティアを提供する立場だったが、今回の震災でボランティアを受ける側に回ってしまった。鎌倉からの定期的なボランティアと支部の参加で、会員宅、イチゴ園や遊歩道整備などを行った。
理事会の活性化 (50,000/ 0)	理事会の活性化	通年	理事会、事務局	豊下理事がJリーグニュースでフー太郎を紹介するなど、各理事が被災した事務局のために様々な活躍した。
認定NPO法人化 (50,000/ 0)	認定NPO法の研究	通年	事務局	認定NPO法が改定されたことから、認可を取るメリット・デメリットを研究する予定だったが、実施されなかった。
資金調達システムの改善 (100,000 /109,686)	会員・記念樹キャンペーン	通年	事務局、支部など	全国キャンペーンが中止されたことから、新規会員を増やすことが難しかった。長年会員だった方からも、東北に支援金を送りたいとのことで脱会通知があるなど、海外支援への募金を呼びかけにくい状況が続いている。2011年記念樹申込みは444本。
	会員アンケート	11月	事務局	フー太郎を支援することに喜びを感じてもらうにはどうすべきか。支援して頂くだけでなく、何かつながっていることにメリットを感じてもらうにはどうあるべきか。事業への提案など、会員アンケートを実施して、会員の考えを汲み取りながら事業に反映していく予定だったが、実施されなかった。
	企業との協力関係を推進する	通年	事務局	震災後、個人だけでなく、これまで付き合いのなかった団体、企業から物資が届いた。日本女子大、京都文教大から大きな支援を頂いた。
	助成金申請	随時	事務局	震災後大変な時間があったが、09年10月からスタートしたJICA草の根技術協力事業の4半期ごとの会計処理を進めることができた。新たな助成金の申請は現地大使館に提案予定。
広報活動の充実 (200,000 /101,312)	会報発行	年4回	事務局	2011年は第63号～65号を発行。年4回の発行が3回になった。今の福島で活動をしていることに称賛の声を頂いた。
	広報戦略の検討	通年	事務局	新たなチラシを作るなど計画していたが、本部はなかなか思うような活動ができなかった。しかし上総支部、関西支部などが様々な活動を展開し募金を送ってくれた。フー太郎の森基金としてのつながりは普段よりずっと深まった。
営利事業 (100,000 /13,021)	キャンペーングッズの販売	通年	事務局、支部など	コーチ派遣の旅費確保のためにコーヒーの販売に力を入れるが、1月仕入れ分は岡野前駐在員と上総支部、鳥取支部が引き受けてくれた。円高で仕入れコストは下がったが、売る機会がなかった。
	フー太郎のお店オープン	通年	事務局	ホームページ上、あるいはネットでショップをオープンし、エチオピアのグッズやコーヒーなどの販売を通じて、フー太郎の活動に理解を深めてもらう計画だったが、ほとんどはかどらなかった。